

白川水辺空間計画(仮称)の検討方針について(報告事項)

令和2年6月

国土交通省 九州地方整備局
熊本河川国道事務所



■ 白川水辺空間計画（仮称）の検討方針について

1. 白川の水辺空間計画について

白川水系河川整備計画に基づく河川整備にあたって、**白川の持つ良好な環境・景観を活かし、周辺との調和も考慮し、住民意見も取り入れながら、白川及びその周辺において、住民が親しみ憩える良好な水辺空間として展開されることを目的に「白川の水辺空間計画」を策定（平成18年8月策定）。**

2. 白川の水辺空間計画の改定について

- 白川では平成14年策定の河川整備計画及び平成18年策定の水辺空間計画に基づき河川整備を推進。
- 平成24年洪水を踏まえた激特事業もあり、河川整備が進捗したことにより整備計画の目標が概ね達成されることから、**更なる安全度向上に向けて河川整備計画を変更。**
- 今後、新たな河川整備計画に基づき河川整備を進めるにあたり、整備計画に記載の水辺空間や景観・環境、防災等に関する思想や考え方を具体の整備に反映していくため、「水辺空間計画」の全面改定を行う。

河川整備計画と水辺空間、景観・環境

「河川整備計画」の**水辺空間や景観・環境に関する記載**は、**思想や概念的なものが多い。**

水辺空間計画の全面改定

思想や考え方の実現に向けて「**水辺空間計画**」を**全面改定（見直し）**を行い、**具体の留意事項・対応方法**をとりまとめる。

3. 白川水辺空間計画 改定の進め方

①改定のポイント

- 「緑川水辺空間計画」を参考に**変更整備計画にて定めたテーマ、基本理念に基づき、防災など関連する項目を追加し複合的な視点**で検討し、河川整備の検討・実施にあたっての**具体の留意事項・対応方法**をとりまとめる。

変更整備計画のテーマ

展開・連携・共生

をキーワードに、基本理念に掲げる「川づくり」に総合的・一体的に取り組む

（基本理念）

- 安全で親しめる川づくり
- 多様な動植物が生育・生息・繁殖する川づくり
- 上流から河口まで、1本でつながる川づくり

■ 白川水辺空間計画（仮称）の検討方針について

3. 白川水辺空間計画（仮称）の改定

② 検討の体制

- **学識者懇談会**と**2つのWG**の体制にて検討を進める。
- 変更計画のテーマ～**展開・連携・共生**～に沿って検討を実施する。

白川水辺空間計画（仮称）

※改定後には適宜見直し

白川・緑川学識者懇談会

【展開】

全体的、複合的な検討
2 WGの検討事項の審議

白川・緑川学識者懇談会委員

・小林先生＜委員長＞・井田先生・内野先生・大本先生
・小柳先生・馬場先生・弘田先生・前川先生・森山先生

意見
検討依頼等

報告
（節目において進捗等）

環境かわづくりWG

【共生】

自然環境、歴史文化、
社会環境等について検討

WG委員

・大本先生＜WG長＞
・内野先生
・小柳先生
・前川先生
・新）乾先生（福工大）
・新）濱先生（京都市大）
・新）森先生（ひのくにベントス）

減災まちづくりWG

【連携】

防災、まちづくり、
景観利活用等について検討

WG委員

・星野先生＜WG長＞
・大本先生
・森山先生
・新）石田委員（熊大）
・新）上杉委員（福工大）
・新）藤見委員（熊大）

【事務局：熊本河川国道事務所・熊本県河川課】

●環境かわづくりWG

「共生」をテーマに検討

河川整備と自然環境・社会環境の共生を目指した「環境保全、自然再生、歴史・文化、社会環境」等に関する項目

- 生物が棲みやすい空間整備（連続性、多様性）
 - ・魚類や生物に配慮した水際の工夫
 - ・土砂の自然流下を考慮した堰の撤去方法の工夫 等
- 歴史に学び未来につなぐ川づくり（歴史・文化を継承した川づくり）
 - ・文化財、歴史的施設に配慮した河川整備
 - ・白川の歴史的な経緯、背景を踏まえた整備 等
- 川と地域、川を中心とする社会環境のあり方
 - ・白川と文化の変遷、社会との関わりを考慮した整備 等

●減災まちづくりWG

「連携」をテーマに検討

多様な主体間の連携による「河川整備・水辺空間の利活用、減災まちづくり、流域と氾濫域の連携・地域防災力向上」に関する項目

- 地域やまちづくりと連携した河川整備
 - ・河川敷や水際の利活用、維持管理を考慮した地域や関係者との連携 等
- かわまち（環境整備事業）の全体構想
 - ・自治体のまちづくり・都市計画との連携、地域の利活用状況を踏まえた環境整備箇所の全体構想 等
- 減災まちづくり、流域と氾濫域との連携のあり方
 - ・まちづくりと連携した河川整備、防災サインなど
 - ・流域と氾濫域の一体性、リスクの共有、情報共有等の連携のあり方 等
- 防災情報共有等の連携のあり方
 - ・行政間の連携による防災情報等の共有（監視体制、わかりやすい情報発信、効果的な広報）
 - ・行政と地域との防災情報の伝達のための連携手法
 - ・自助力向上のための支援（浸水深表示、マイハザードマップ） 等

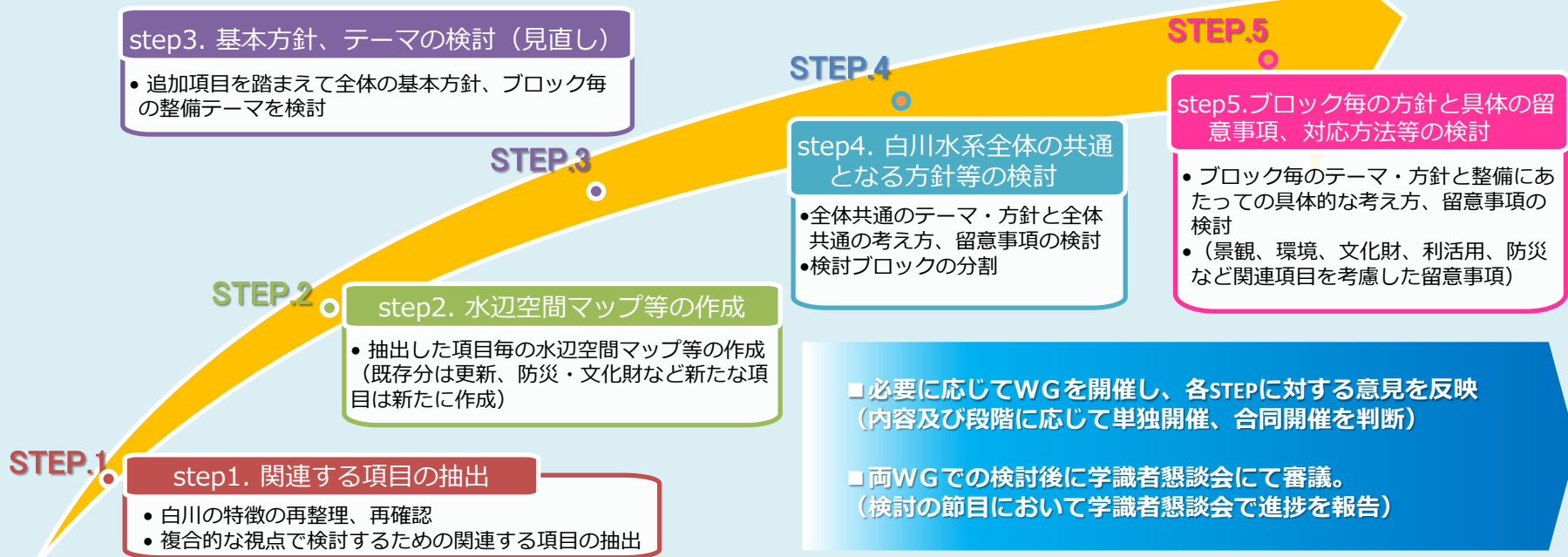
■ 白川水辺空間計画（仮称）の検討方針について

3. 白川水辺空間計画（仮称）の改定

③ 具体の検討事項・手順

白川水辺空間計画の検討STEP（案）

※step1～4は国・県（上下流）一体で検討、step5は国、県それぞれで検討



④ 検討スケジュール（案）

令和2～3年度
でのとりまとめを
目標に検討実施

令和2年度

- step1 関連する項目の抽出
- step2 水辺空間マップの作成
- step3 基本方針、キャッチフレーズ、テーマの検討（見直し）
- step4 白川水系全体の共通となる方針等の検討

令和3年度

- step5 ブロック毎の留意事項、対応方法等の検討
- ※国区間を先行して作成

■ 水辺空間計画の位置づけに関するイメージ

河川改修事業、維持管理事業

熊本河川国道事務所

水辺空間計画(案)を活用するなかで得られた
知見等をもとに更新の必要性を整理

申し送り

【出張所・施工業者】

設計・施工チェックリスト
(施工段階)

【設計担当課・設計コンサル】

設計・施工チェックリスト
(設計段階)

Do : 実行

- ・ 施工業者へ設計思想と留意点を伝達
- ・ 施工状況と施工結果の現地確認とチェックリストへの記載

- ・ 水辺空間計画との整合性の確認
- ・ 設計・施工段階における留意点への対応
- ・ 設計思想の整理

報告

【調査第一課】

白川水辺空間計画(案)

- ・ 年度当初の河川系職員への周知
- ・ 計画更新の必要性の検討

Check : 評価

活用

白川水系河川整備計画 (R2年1月改正)

- ・ 理念・方針を踏襲
- ・ 丁寧なブロック分けと整備テーマの具体化

白川・緑川 学識者懇談会

Act : 改善

- ・ 水辺空間計画(案)の更新内容の確認・審議、更新内容の決定

更新

報告

活用

白川水辺空間計画(案)

Plan : 計画

提示

※水辺空間計画(案)
の更新案

環境かわづくりWG
減災まちづくりWG

- ・ 水辺空間計画(案)の更新内容の検討

提示

※景観カルテ

整備計画と水辺空間
計画(案)を踏まえて
景観カルテを作成

熊本河川国道事務所
景観委員会
(景観カルテの審議)

■ 白川水辺空間計画（仮称）検討WG委員 名簿

環境かわづくりWG委員

敬称略、50音順

氏名	専門分野	所属等	備考
乾 隆帝	水圏環境	福岡工業大学 社会環境学部 准教授	新
内野 明德	環境	熊本大学 名誉教授	
大本 照憲	河川工学	熊本大学 工学部 教授	WG長
小柳 倫太郎	水利	熊本県土地改良事業団体連合会 常務理事	
濱 武英	水環境工学	京都大学 農学部 准教授	新
前川 清一	文化財	熊本県文化財保護審議会 委員	
森 敬介	環境	ひのくにベントス研究所 所長	新

減災まちづくりWG委員

敬称略、50音順

氏名	専門分野	所属等	備考
石田 桂	水文気象学	熊本大学 工学部 助教	新
上杉 昌也	地理学	福岡工業大学 社会環境学部 准教授	新
大本 照憲	河川工学	熊本大学 工学部 教授	
藤見 俊夫	防災	熊本大学 工学部 准教授	新
星野 裕司	景観	熊本大学 工学部 准教授	WG長
森山 聡之	防災	福岡工業大学 社会環境学部 教授	

<参考> 白川の水辺空間計画（現計画）と緑川水辺空間計画のマップ

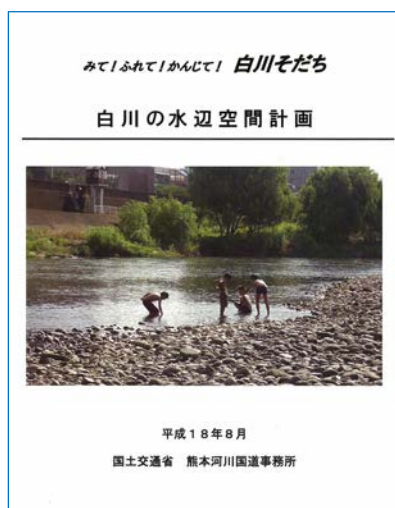
○白川の水辺空間計画（現計画）のマップ

■自然環境

■景観・歴史

■用途地域指定状況

3項目



【現行】白川の水辺空間計画
(平成18年8月)

○緑川水辺空間計画のマップ

13項目

分類	項目	内容
1. 歴史	①歴史	治水・利水の歴史的施設、寺社、史跡、文化財、改修年表
	②絵図	絵図、二線堤、不連続堤、轆塘、氾濫を許容箇所
	③遺跡・文化財	文化財、遺跡名称等一覧表、整備計画メニュー
2. 自然・環境	④場の特徴	代表的な動植物の生息地・生息環境、干潟、ワンド、瀬・淵、感潮区間、湛水区間、瀬・淵の連続する区間
	⑤詳細情報	樹木、植物群落、底生動物、両・爬・哺、魚類、鳥類、干潟、ワンド、瀬・淵、セグメント、自然公園、水源地
	⑥重要樹木	重要樹木、生物生息の特徴（植物、鳥類）、砂礫河原・アユの産卵場、利用
3. 社会・生活	⑦コミュニティ	官公庁施設、学校、小学校区、公民館
	⑧利用	広場・公園、採草地、イベント、スポーツ、流域活動団体、観光地、利用場所・形態、利用風景、団体の活動範囲
	⑨景観（特徴的な景観）	堤内地や山並みを含めた広域的・普遍的な景観、景観変化点、堰や護岸等の施設景観
4. 治水・防災	⑩避難	浸水想定区域、浸水深、避難場所・方向、危険箇所、水防倉庫、災害拠点病院、小学校区
5. 基礎情報	⑪利水	利水施設、漁業組合、漁港、船着き場、用水ルート、灌漑・漁場範囲、漁港区域
	⑫景観（橋上からの景観）	各河川にかかる橋から撮影した上下流方向の写真
	⑬条例・都市計画等	市街化区域、市街化調整区域、用途地域、拠点地区、保護区、景観条例制定市町村、特定施設届出地区（県指定）
—	参考：河川整備計画	整備計画内容、各ブロックの標準断面